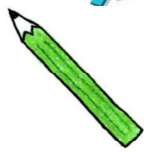


ジュニアライターが



地球上では2018年、約530万人が5歳を迎えることができませんでした。国連児童基金（ユニセフ）の調査です。貧困や紛争、自然災害など過酷な環境で暮らし、命を落としているのです。中国新聞ジュニアライターは、世界の子どもたちにどのような支援をすることができるのか、広島県内や東京の国際支援団体を取材しました。調べてみると、寄付だけでなくさまざまな方法で協力できることが分かりました。書き損じや未使用のはがきを募っている団体もありました。少しずつ始めてみませんか。

身近にできる国際支援

協力 寄付だけじゃない

広島県ユニセフ協会（広島市中区）に発展途上国の子どもたちの現状や、若者ができる国際支援について聞ききました。

同協会は、190の国と地域で子どもたちを支援するユニセフを広島で支援しています。街頭募金をしたり、児童労働や難民など10のテーマについて学ぶ出前授業を開いています。事務局長の高田和美さん（60）が、写真で子どもたちの様子を説明してくれました。例えば、5歳未満の4人に1人は栄養失調。約6100万人は学校に通えないそうです。

ユニセフは集まった寄付を支援物資に充てています。感染症予防のためのワクチンや、ビナツバターに似たベースト状の栄養治療食、経口補水塩などを実際に見せてもらいました。想像以上にたくさん種類がありました。

高田さんは若者に向けたメッセージとして「豊かな生活の裏側でどんなことが世界で起きているのか、まず知ることが上で行動してほしい」と話しました。

広島市立大（安佐南区）のサークル「S2（エスツウ）」は、食事を通じた国際支援に取り組んでいます。2014年に始めました。

大学の食堂で、1食につき20円を発展途上国の子どもにも届ける活動です。20円は発展途上国の給食1食分に相当し、集まったお金は「ティールフォー」(TFF)「サークル事務局（東京）」に送っています。

国際学部2年で部長の谷野詠春さん（19）たちによる。食堂は一般の人々も利用できます。

と、1、2年生計11人が活動しています。毎週木曜のメニューの一つに取り入れられているこの活動は、2014年に始めました。

最近では利用者が少ないので、ツイッターで献立を発信したりチラシを配ったりしてPRしています。谷野さんは「負担を感じず手軽に続けられるのがいい。参加する人が増えてほしい」と話しました。

学食使い途上国応援

広島市立大サークル



④ティールフォーの仕組みについて説明する谷野さん（左端）たちメンバー
⑤国際交流ラウンジで集まった切手を整理するジュニアライター



ユニセフの支援物資について説明する高田さん（右）

世界のいまを知ろう 広島県ユニセフ協



捨てていたものの活用 切手・キャップ

広島国際会議場（広島市中区）1階にある国際交流ラウンジで、使用済み切手とペットボトルのキャップを集めています。ジュニアライターは、集まった切手を整理するボランティアに参加しました。

専用ボックスから大量の切手を取り出し、周囲をきれいに切っています。見たことがないような海外の切手などがあり、楽しみながら作業しました。日本キリスト教海外医療協力会（東京）に送った後、コレクターに売って得たお金を発展途上国の医療者を育てたり派遣したりする活動に充てるそうです。

ペットボトルのキャップは広島市内の団体を通じて東京のNPO法人に送ります。子ども用のポリオなどのワクチン購入費になります。生活の中で少し意識すれば、捨てていたものを支援につなげることができる分かりました。

団体名	支援内容	電話番号
広島県ユニセフ協会	ワクチンや経口補水塩など、子どものための支援物資	082(231)8855
国際交流ラウンジ	使用済み切手は医療支援の資金、ペットボトルのキャップはワクチンの購入費に。集まった切手を整理するボランティアも募集	082(247)9715

■書き損じや未使用のはがきの送り先

NPO法人 日本紛争予防センター	紛争で傷ついた子どもたちのケアや平和構築事業など	03(5579)8395
NPO法人 チャイルド・ファンド・ジャパン	大地震で被害を受けたネパールの子どもたち	03(3399)8123
NPO法人 ビースウィングス・ジャパン	国内外での被災地支援など	03(5738)8020

私たちが担当しました

この取材は、高3鬼頭里歩（イラストも）、高2伊藤淳仁、及川陽香、目黒美貴、フィリックス・ウォルシュ、中3桂一葉が担当しました。

次回は3月30日に掲載します。取材を通して中国新聞ジュニアライターが感じたことを、ヒロシマ平和メディアセンターのウェブサイトで見ることができます。

